
バカとテストと間接者

kddo

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカとテストと間接者

【Nコード】

N7957M

【作者名】

k d d o

【あらすじ】

主人公斎藤一輝がFクラスとどたばた物語！

プロローグ（前書き）

間違えて短編小説にしてしまっ
てかきなおしました

プロローグ

とてもいい天気、俺は一学期初日から遅刻しちゃったww
そこで俺の自己紹介をしよう。俺の名は斎藤一輝これだけだw
おっ学校が見えてきた。

「おはようです、（鉄人）西村先生」

「おい、今二重に声を出して鉄人と言ったよな？」

「言ってますよ（言いましたよ）」

「・・・まあいいだろう、ほらお前のだ」

ひとつの封筒を渡された。

「なんすつかこれ？」

「振り分け試験の結果だ」

「じゃあ見なくてもわかりますわ、だって俺寝てたもん」

「お前はバカか、試験中に寝るバカがどこにいる！」

「ここにいるぜ！」

「威張るな、たくっ少しは反省しろ」

ペタッ 鉄人の膝に手を乗せてしたに傾いている

「お前は猿かバカもん！」

「オレ流の反省のしかたです！」

「はあ、もういいぞ・・・絶対問題を起こすなよ」

「わかりましたー」

少し歩くとまた鉄人の怒鳴り声が聞こえてきた。

プロローグ（後書き）

頑張ってみるので、応援してください

バカ（明久）と俺と坂本雄二

（Aクラス教室前）

「へえーこれがAクラスねえー学校じゃなくてホテルのまちがえじやないのか？」

Aクラスは自己紹介をしているとこだ。

「やっぱかわいいやつばっかだなー、今度告ってみるかw」
こうしてFクラスのほうに歩いていった。

（そついや、今優子いなかったか？まあいいか）

（Fクラス教室前）

バタッ

あまりの酷さに鞆を落としてしまった。

「ここの学校どうかしてねーか！差がでかすぎるだろうー！」

そう叫ぶと鞆を拾って中に入った。

「遅れましたー」

「早く座れ、この糞虫！」

「あーん、なんつったゴリラ」

「なっー輝お前か！悪い！明久だと思っただ」

「問答無用！」

「まっまで！ぎっぎやああああ」

ふう、スッキリ！

さて、このクラスは誰が要るかね。

・まず雄二と絶対明久だろ、それとあそこに秀がいるな。
それに島田もいてわが親友、ムツツリーニがいるぜ！
早速声をかけてきたのは

「一輝は朝から元気じゃのっ」

秀だった。

「秀ちゃんおはよー」

「秀ちゃんと言っつのはちょっと嫌じゃな、おはようじゃ」

「朝おこしにきてくれよー秀ー俺起きれんからさーいいだろーねえー」

「わっ分かったから甘えるでない」

「よっしやー」

「・・・おはよう」

「おお、ムツツリーニおはよう！今日の調子はどつだっ」

「・・・(グッ)」

「絶対調かwそれはよかった」

「はろはろー斎藤ー」

「島田かおはよう、胸はいつもどつりだな」

「あなたに今攻撃しても無駄だとおもっけど絶対技をかけてやるんだから」

不満と怒りが見えている。

なぜみんなが俺を攻撃しないかってそれは・・・また今度

「みんな一緒の教室でよかったな」

「あれ、そういえば圭ーと桜は？」

圭ーと桜って誰って？俺の弟と妹だ

あとで説明するわw

「あいつらはまだ寝てたと思うぞ、まああいつらは当然Aクラスだと思っけどな」

「あんた起こしてきなさいよ、可愛そうに」

「いや、あいつらの自業自得だ、あいつら夜の4時まであそんでたしな」

「それは確かに自業自得じゃな」

そうやって話していると

バン！

「遅れました(じゃん)!!」「……」
見覚えのある顔の二人と明久の死体？が来た。
「……」 クラスの空気
「あれー先生来てないじゃん、走って損じゃん」
見覚えのある顔の二人の女の方がタメ口をいつている。
「まあ、間に合ったからいいやん」
見覚えのある顔の二人の男の方が笑って女の方をなだめている。

つて圭一と桜じゃんよ!!

「圭一、桜！何でここにいるんだ！」

俺が慌ただしく言う。

「何でって俺達名前書いてなくてFクラスになっちゃったんだ」

「ここ汚いねー」

圭一が理由を言ったあと桜が愚痴った。

「お前らはまったくバカか」

「兄上(兄ちゃん)に言われたくないよ」

ん？なぜだ？頭はかなりいいぞ

「俺はバカじゃない！試験中に寝てただけだ」

「それがバカなんだよ」

うっつ、ひどい言われようだ。

「まあ、兄弟揃って良かったではないか」

秀が言う。

「ひつ秀吉さんこつここの教室でしたの」

桜がテンパる。桜が秀吉のことが好きなのは分かるだろ。

しかも圭一は優子が好きなんだぜ。スゲーだろ。

「てかなんで明久は死んでんだ？」

「死んでないわよ、気絶してるの。廊下に転がってるから拾ってきたの」

「そうか、よかったな明久桜の胸を触れて。俺なんかちっとも触ら

せてくれないんだぞ」

「だれが触らすか！この変態兄貴！」

「冗談だ！だからサバイバルナイフをしまえ！」
学校に持つてくるもんじゃねーだろ。

こんな話をしていると先生も遅れて来て自己紹介が始まった。
えっ雄二？そんなのいたっけ？

バカ（明久）と俺と坂本雄二（後書き）

まだまだがんばります

人物紹介（前書き）

突然ですが人物紹介です

人物紹介

オリキャラだけ紹介します。

（人物紹介）

さいとうかずき
斎藤一輝主人公

結構イケメンで性格はイタズラをよくしてきたり、怒るとサブミッシヨンをかけてくる。実はムツッリーニと並ぶ程のムツッリスケベである。

秀吉と優子とは幼馴染みで明久は一輝の遊び道具である。

料理もけっこうできて、頭も教師レベルだがうっかり癖やめんどくさいなどあまりしつかりと勉強しない

間接技がとて強く優子や島田の師匠でもある。そのすごさで、ある名前がつけられたが彼はその名前を嫌っている。

兄弟もいて家族で長男である。特技は色々とあるが今は機密事項である。

斎藤圭一（さいとうけい
いち）

一輝の弟であり、家族で次男である。

こいつも結構なイケメンで性格はクールでちょっとお人好し。だが、たまに性格が適当になる。

優子のが好きでたまにアタックするが優子はわからず受け流されてしまう

頭のよさは一輝よりは良くないがAクラス並みである。

さいとうけい
斎藤桜

一輝の妹で、家族では長女である。

この家族は美形ばっかなので勿論美人である。性格は強めでちょっとツンデレである。

秀吉のことが好きで秀吉とあうといつもテンパってしまふ。

頭のよさは圭一と同じ位である。秀吉といるときは言わないが、口癖でじゃん、と言つことがある。

人物紹介（後書き）

まだオリキャラをいつか出しているころと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7957m/>

バカとテストと間接者

2010年10月12日00時14分発行